

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 西堂 直子 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。 ・ 発達障害、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病虚弱など障害児の基礎的な知識を身につける。 ・ 異文化圏での生活様式をもつ家庭や経済的貧困や虐待問題等により特別な支援ニーズのある幼児、児童及び生徒の生活上の困難とその対応について理解する。 ・ 特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の支援の方法とシステムについて理解する。			
授業の概要			
様々な障害や環境上の問題から幼児・児童・生徒がどんな困難を抱えているのか事例を通して理解を深めていく。特別支援教育の教育課程を学び、具体例を基に個別の指導計画や教育支援計画をどのように作成し支援につなげるかを考えていく。様々な学習上の困難を抱えている幼児・児童・生徒が生き生きと学び生きる力をつけていくことができるよう学校内外の関係機関との連携の在り方や特別支援教育を支える仕組みについて学ぶ。			
授業計画			
第1回：特別支援教育の歴史的変遷			
第2回：インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育の理念と仕組みについて			
第3回：特別支援教育に関する教育課程と「通級による指導」及び「自立活動」の位置づけ			
第4回：特別な支援を必要とする子どもの心身の発達、心理的特性と子どもが抱える困難について			
第5回：母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援について			
第6回：発達障害の理解と支援の在り方について			
第7回：知的障害の理解と支援の在り方について			
第8回：肢体不自由、病弱の理解と支援の在り方について			
第9回：視覚障害の理解と支援の在り方について			
第10回：聴覚障害の理解と支援の在り方について			
第11回：個別の指導計画と教育支援計画の意義と活用			
第12回：関係機関との連携と支援体制について			
第13回：特別支援学校のセンター的機能とコーディネーターの役割			
第14回：家庭との連携と保護者支援の在り方について			
第15回：インクルーシブ教育システムとインクルーシブな社会について			

定期試験は実施しない。

テキスト

「小・中学校の教師のための特別支援教育入門」小谷裕実・藤本文朗・青山芳文・小畑耕作・近藤真理子編著 （2020） ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

「新版キーワードブック特別支援教育」玉村公二彦・黒田学・向井啓二・平沼博将・清水貞夫編著 （2020） クリエイツかもがわ

学生に対する評価

レポート試験 60% 毎回の授業での課題 40%

授業科目名： 知的障害児の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古田 直樹、岡本 恭明 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害児の心理的な特徴と定義について理解し、支援に必要な基礎知識を習得する。 知的障害児の生理・病理の特徴を学び、特別支援教育のための基礎知識を習得する。 （１）知的障害児の教育や支援に必要な最低限の知識を習得する。 （２）特別支援教育に携わるために必要な発展的科目習得の準備をする。 （３）特別支援教育だけでなく、保育・初等教育に携わる者として必要な最低限の知識を習得する。			
授業の概要 知的障害の障害概念、障害特性、心理的特徴の概要を学ぶ。知的障害の背景にある生理学的・病理学的原因について学習する。			
授業計画 第1回：障害のある子どもについての基礎知識（担当：古田） 第2回：知的障害の概要と定義（担当：古田） 第3回：知的障害となる要因（担当：岡本） 第4回：知的障害児の発達の特性（乳幼児期）（担当：岡本） 第5回：知的障害児の発達特性（学童期）（担当：岡本） 第6回：知的障害児の感覚・知覚・認知特性（担当：岡本） 第7回：知的障害児の言語・コミュニケーション特性（担当：岡本） 第8回：知的障害児の運動・動作特性（担当：岡本） 第9回：知的障害と関連する障害1（ダウン症、自閉症、てんかん等）（担当：岡本） 第10回：知的障害と関連する障害2（発達障害）（担当：岡本） 第11回：知的障害児のアセスメント（担当：古田） 第12回：発達検査と知能検査（担当：古田） 第13回：発達診断と発達相談（担当：古田） 第14回：知的障害のある子どもの理解を進める（幼児期）（担当：古田） 第15回：知的障害のある子どもの理解を進める（学童期）（担当：古田） 定期試験 テキスト			

必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書・参考資料等 「障害医学への招待」 杉本健郎、二木康之、福本良之編著 （2006） クリエイツかもがわ
学生に対する評価 授業での課題 20％ 定期試験 80％

授業科目名： 肢体不自由児の心理 ・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古田 直樹、岡本 恭明 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：肢、含む領域：知・病）		
授業のテーマ及び到達目標 肢体不自由児の主な疾患についての病因・症状・予後について理解する。 肢体不自由による身体的・心理的影響を理解し、それらに応じた支援の方法について説明することができる。			
授業の概要 肢体不自由児に関する解剖学的・生理学的な基礎知識を学ぶ。 肢体不自由児の主な原因疾患の基礎を学び本人と家族への支援のあり方について考察する。 日常生活・学校生活・家庭支援・社会参加・医療的ケアなどの現状や課題を学ぶと共に、本人や家族が抱える心理的な負担について理解する。			
授業計画 第1回：肢体不自由児とは何か（担当：古田） 第2回：運動機能の発達（担当：岡本） 第3回：肢体不自由児の原因疾患－脳性麻痺（痙直性四肢麻痺）（担当：岡本） 第4回：肢体不自由児の原因疾患－脳性麻痺（痙直性両麻痺・片麻痺・アテトーゼ型）（担当：岡本） 第5回：肢体不自由児の原因疾患－筋疾患（デュシェンヌ型）（担当：岡本） 第6回：肢体不自由児の原因疾患－筋疾患（その他の筋疾患）（担当：岡本） 第7回：肢体不自由児の原因疾患－低緊張児（担当：岡本） 第8回：肢体不自由児の原因疾患－二分脊椎・骨結合組織疾患（担当：岡本） 第9回：肢体不自由児の実態把握の方法（担当：古田） 第10回：身体的・心理的コミュニケーションの支援のありかた（担当：古田） 第11回：心理的要求行動の形成と表出の方法への理解（担当：古田） 第12回：肢体不自由児の発達・心理検査と診断の方法（担当：古田） 第13回：肢体不自由児の医療的ケアと家族支援（担当：古田） 第14回：教育・医療・福祉との連携（担当：古田） 第15回：肢体不自由児のADLとQOL（担当：古田） 定期試験			
テキスト 「発達支援 発達援助」 古田直樹著 （2006） ミネルヴァ書房			

参考書・参考資料等
「障害医学への招待」 杉本健郎・二木康之・福本良之編著 (2006) クリエイツかもがわ
学生に対する評価
授業での課題 20% 定期試験 80%

授業科目名： 病弱児の心理・生理・ 病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古田 直樹、岡本 恭明 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：病、含む領域：知・肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
病弱児教育の基盤として、病弱児の心理・生理・病理の知識を学ぶ。慢性疾患を患ったことから発生する身体と生理的側面、社会的側面にわたる影響を学び、病弱児とその家族にあった適切な支援ができる教員としての資質を培う。			
（１）疾病の基礎知識（生理と病理など）、そして心理状態について学び、教育上の指導や教育的配慮を理解する。			
（２）疾病・病弱の子どもに対する教育の役割を考える。			
（３）疾病・病弱の子どもの個別性を理解し、個別学習指導計画を立案できる基礎を学ぶ。			
（４）病弱児とその家族が暮らしやすい社会の実現について考えを深化させる。			
授業の概要			
病弱児（慢性疾患患児や虚弱児を含む）の心理および身体的な生理機能や病理について学び、病気の発生起因、症状、治療や援助について理解する。とくに胎児期や乳児期、学童期、思春期に発生する疾病を中心に上げ、疾病が人の心と身体に及ぼす影響について学ぶ。さらに病弱児とその家族がQOLを高め、暮らしやすい社会の実現について考えを深化させる。			
授業計画			
第1回：病弱児の概念及び病弱教育の歴史（担当：古田）			
第2回：疾病の子どもの心理的特性（担当：古田）			
第3回：疾病・障害の受容とセルフケア（担当：古田）			
第4回：教育・医療・保険・福祉との連携と支援（担当：古田）			
第5回：疾病の子どもの親支援、きょうだい児支援（担当：古田）			
第6回：疾病の子どもの医療的ケア（担当：古田）			
第7回：疾病の子どものADLとQOL（担当：古田）			
第8回：アレルギーの機序、アレルギー疾患を持つ子どもの生活、学校生活管理指導表（担当：岡本）			
第9回：心臓の発生、先天性心疾患、その他の循環器疾患を持つ子どもの生活（担当：岡本）			
第10回：腎臓・泌尿器の機能、慢性疾患を持つ子どもの生活（担当：岡本）			
第11回：内分泌系の機能、糖尿病を持つ子どもの生活（担当：岡本）			
第12回：小児がん罹患した子どもの生活、小児慢性特定疾病（担当：岡本）			
第13回：中枢神経系の発生、てんかんを持つ子どもの生活（担当：岡本）			

第14回：子どもの心の発達、心身症・摂食障害を持つ子どもの生活（担当：岡本）

第15回：低出生体重児であった子どもの生活、小児肥満（担当：岡本）

定期試験

テキスト

必要に応じて適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

「障害医学への招待」 杉本健郎、二木康之、福本良之編著 （2006） クリエイツかもがわ

「関係性の発達臨床」 山上雅子、古田直樹、松尾友久編著 （2014） ミネルヴァ書房

学生に対する評価

授業での課題 20% 定期試験 80%

授業科目名： 知的障害児教育論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西堂 直子
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知、含む領域：肢・病）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 知的障害児の実態、教育の現状を理解し、必要な支援を考えることができる。 ・ 知的障害児教育における教育課程を理解する。			
授業の概要 知的障害児教育の教育課程について解説し実践を織り交ぜながら基礎を学ぶ。個別の指導計画、個別の教育支援計画について、関係諸機関との連携について学ぶ。			
授業計画 第1回：知的障害のある児童・生徒の教育課程と指導形態 第2回：幼稚園、小学校の学習指導要領と特別支援教育 第3回：知的障害児教育の教育課程① 教育課程の編成 第4回：知的障害児教育の教育課程② 教科指導 第5回：知的障害児教育の教育課程③ 生活単元学習・総合的な学習 第6回：知的障害児教育の教育課程④ 自立活動 第7回：知的障害児教育の教育課程⑤ 作業学習 第8回：個別の指導計画の実践 第9回：個別の教育支援計画について 第10回：進路指導 第11回：関係諸機関との連携 第12回：障害者権利条約 第13回：合理的配慮について 第14回：インクルーシブ教育の国際的動向 第15回：日本の知的障害児教育の歴史 定期試験は実施しない			
テキスト 「特別な支援を必要とする子どもの理解と教育」茨城大学教育学部障害児教育教室・茨城大学教育学部附属特別支援学校編（2019） クリエイツかもがわ			
参考書・参考資料等 「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」平成29年告示 文部科学省			

「特別支援学校高等部学習指導要領」平成31年告示 文部科学省

「新版キーワードブック特別支援教育」玉村公彦・黒田学・向井啓二・平沼博将・清水貞夫編
著 (2020) かもがわ出版

学生に対する評価

レポート60% 授業での発表40%

授業科目名： 知的障害児教育論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西堂 直子
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導に関する 科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 知的障害児教育の教育課程を踏まえ、教育に必要な知識と理解を深める。 実際に学習指導案を作成、模擬授業を通して知的障害教育の授業について考えることができる ようになる。			
授業の概要 知的障害児教育の教育課程を踏まえ学習指導案を作成、模擬授業を行う。 模擬授業を基に授業検討を行い、指導内容、指導方法を深めていく。			
授業計画 第1回：特別支援教育における教師の専門性について 第2回：多様な教育の場と指導の実際 第3回：授業づくりと集団編成 第4回：特別支援教育の教材・教具 第5回：特別支援教育におけるティームティーチングの意味とあり方について 第6回：特別支援学校における学習指導案 第7回：特別支援教育における教育評価と記録 第8回：授業検討①（特別支援学級の授業検討） 第9回：授業検討②（特別支援学校の授業検討） 第10回：授業づくり（指導案を作成する） 第11回：授業づくり（指導案を検討する） 第12回：授業づくり（指導案を発表する） 第13回：模擬授業①（グループ1の模擬授業と検討） 第14回：模擬授業②（グループ2の模擬授業と検討） 第15回：模擬授業③（グループ3の模擬授業と検討） 定期試験は実施しない			
テキスト 「よくわかる特別支援教育第2版」湯浅恭正編（2020）ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領 平成29年告示 文部科学省			

「特別支援学校高等部学習指導要領」平成31年告示 文部科学省

学生に対する評価

レポート50% 授業での発表（模擬授業を含む）50%

授業科目名： 肢体不自由児教育論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加茂 勇 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 肢体不自由児教育の歴史的変遷や現状及び対象となる児童生徒の障害について理解する。 ・ 肢体不自由児教育の教育課程編成についての基本的事項について説明できる。 ・ 肢体不自由児教育への個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成意義を理解する。			
授業の概要 肢体不自由児教育の歴史、現状、子ども理解、教育課程の編成、指導の内容、方法に関する理論や知識を学び、肢体不自由児教育の基本についての理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 肢体不自由児教育の理念 第2回：肢体不自由児教育の歴史 第3回：肢体不自由児教育の現状と仕組み 第4回：肢体不自由児の理解 第5回：肢体不自由児の障害特性と教育の意義① 肢体不自由の定義と運動発達 第6回：肢体不自由児の障害特性と教育の意義② 脳性まひと二分脊椎 第7回：教育課程① 教育課程編成の基本 第8回：教育課程② 小・中学校における教育課程編成 第9回：教育課程③ 特別支援学校における教育課程編成 第10回：肢体不自由児教育の指導① 自立活動 第11回：肢体不自由児教育の指導② コミュニケーション 第12回：肢体不自由児教育の指導③ 読み・書き・数 第13回：肢体不自由児教育の指導④ 医療的ケア 第14回：肢体不自由児教育の諸課題への対応としての個別の指導計画と個別の教育支援計画 第15回：まとめ 肢体不自由児教育論の要点 定期試験			
テキスト 安藤隆男・藤田継道編著（2015）「よくわかる肢体不自由教育」ミネルヴァ書房 特別支援学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）			

参考書・参考資料等

下山直人編著（2010）「肢体不自由教育ハンドブック」社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団

北村普一（2013）「乳幼児の運動発達と支援」 群青社

学生に対する評価

授業における意見交換 20% レポートや確認小テスト 30% 定期試験 50%

授業科目名： 肢体不自由児教育論 Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加茂 勇 担当形態：単独
科 目	特別支援に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 肢体不自由児教育の歴史的変遷や現状及び対象となる児童生徒の障害について理解する。 ・ 肢体不自由児教育の教育課程編成についての基本的事項について説明できる。 ・ 肢体不自由児教育への個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成意義を理解する。			
授業の概要 肢体不自由児教育論Ⅰで学んだ基本をもとに、教育現場の見学や映像視聴及び演習を通して、 肢体不自由教育に求められるより具体的な知識、技能、子ども理解について深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：肢体不自由学級や特別支援学校の見学 第3回：見学を終えての疑問や感想の共有 第4回：肢体不自由教育における自助・介助具の理解と活用 第5回：肢体不自由児教育の実際：肢体不自由教育にかかわる教師の語り 第6回：指導の実際① 脳性まひ 第7回：指導の実際② 進行性筋ジストロフィー 第8回：指導の実際③ 重症心身障害 第9回：指導の実際④ 二分脊椎、先天性骨形成不全 第10回：肢体不自由児のキャリア教育と進路指導 第11回：関係機関との連携 第12回：インクルーシブ教育システムにおける肢体不自由教育 第13回：肢体不自由児教育に関連する福祉制度 第14回：肢体不自由児教育の課題と展望 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 安藤隆男・藤田継道編著（2015）「よくわかる肢体不自由教育」ミネルヴァ書房 特別支援学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）			

参考書・参考資料等 下山直人編著（2010）「肢体不自由教育ハンドブック」社会福祉法人
全国心身障害児福祉財団

北村普一（2013）「乳幼児の運動発達と支援」 群青社

学生に対する評価

授業における意見交換 20％ レポートや確認小テスト 30％ 定期試験 50％

授業科目名： 病弱児教育論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 古田直樹、西堂直子 加茂勇
				担当形態：オムニバス
科 目		特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童または生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：病、含む領域：知・肢）		
授業のテーマ及び到達目標				
病弱児教育に関する制度や現状について知る。				
病弱児の心理面、行動面、生活面の特徴を理解し教育的支援の在り方を考える。				
授業の概要				
病弱児教育の意義や歴史的変遷を踏まえ、教育課程に関する基礎的な内容を学習する。				
病弱児教育を必要とする子どもたちの事例から具体的な支援や授業の方法を学ぶ。				
病弱児教育の環境整備の実際や他の関係機関との連携の在り方を学ぶ。				
授業計画				
第1回：病弱・身体虚弱の状態等の把握（担当：西堂）				
第2回：合理的配慮と医療的ケア（担当：西堂）				
第3回：病弱児教育の概要と歴史的変遷（担当：西堂）				
第4回：病弱児教育の現状と制度（担当：西堂）				
第5回：病弱児教育における特別な指導と学びの場（担当：西堂）				
第6回：病弱児教育における教育課程と自立活動（担当：加茂）				
第7回：病弱児教育の授業の実際一通級による指導（担当：加茂）				
第8回：病弱児教育の授業の実際一特別支援学級による指導（担当：加茂）				
第9回：病弱児教育の授業の実際一院内学級による指導（担当：加茂）				
第10回：病弱児教育の授業の実際一特別支援学校における指導（担当：加茂）				
第11回：疾病の状態による配慮事項一心身症（担当：古田）				
第12回：疾病の状態による配慮事項一慢性疾患（担当：古田）				
第13回：病弱児を支援する多職種との連携（担当：古田）				
第14回：事例に基づく具体的な支援方法（担当：古田）				
第15回：病弱児と家族への支援（担当：古田）				
定期試験は実施しない				
テキスト				
「標準「病弱児教育」のテキスト」日本育療学会編著（2019）ジアース教育新社				
参考書・参考資料等				

「障害の重い子どもの発達診断」 白石正久著 (2016) クリエイツかもがわ
--

学生に対する評価

加茂勇担当 40% (レポート試験)、古田直樹担当 30% (レポート試験)、

西堂直子担当 30% (レポート試験)

授業科目名： 視覚障害教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 豊田悦子
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する教育		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：視）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 視覚障害に関する基礎的な知識を理解する。 ・ 視覚障害教育の現状と課題を理解する。 ・ 視覚障害児者の自立活動の特性を理解し、視覚補助における技能の初歩を習得する。			
授業の概要			
視覚障害や視覚障害教育の歴史、教育の特性、および自立活動の内容を学ぶ。 前半は、実際に点字の読み書きや手引きの仕方やアイマスク・弱視体験等、様々な場面で体験学習を取り入れる。後半は、幼稚部教育、全盲児、弱視児、重複児の教育について、それぞれに適した教材教具を紹介しながら、具体的な支援の仕方を理解できるようにする。			
授業計画			
第1回：視覚障害者の歴史、視覚障害教育の概要（視覚障害児と学びの場）			
第2回：視覚障害の病理・視機能について、視覚の特性、障害による影響などについて			
第3回：視覚障害による制限、手引きと歩行（アイマスク体験）			
第4回：視覚障害者の生活と点字、点字の歴史、点字の概要			
第5回：点字表記法、点字の読み書き実習			
第6回：視覚障害幼児の発達と支援：五感を使って			
第7回：全盲児の指導、触覚の特性、点字導入指導			
第8回：弱視児の指導、見やすい環境の整備、教材の工夫、視覚補助具			
第9回：教科の指導、「準ずる教育」			
第10回：重複障害児の教育			
第11回：自立活動の指導			
第12回：歩行指導			
第13回：キャリア教育・進路指導			
第14回：視覚障害児者の学校生活とスポーツ、文化			
第15回：視覚障害児者への支援、視覚障害教育の課題			

定期試験
テキスト 新視覚障害教育入門 青柳まゆみ・鳥山由子編著 2020年 ジーアス教育新社
参考書・参考資料等 以下も含め、授業中に適宜資料を配布する。 特別支援学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省） 特別支援学校学習指導要領解説 総則編・自立活動編（平成30年告示 文部科学省） 新訂版 視覚障害教育入門Q&A（全国盲学校長会編著 ジーアス教育新社）
学生に対する評価 定期試験 60% 授業内提出物 20% 平常点 20%

授業科目名： 聴覚障害教育		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 庄司智子
				担当形態：単独
科 目		特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身の障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：聴）		
授業のテーマ及び到達目標：「聴覚障害教育—子どもの理解と指導支援」をテーマとし、聴覚障害の障害特性、聴覚障害児生への必要な指導や支援について理解し、実践できる				
授業の概要				
聴覚障害教育の現状と課題を明らかにしながら、必要な指導と支援について具体的に理解を図っていく。（擬似体験、手話実技、演習等多く取り入れ、理解を図る）				
授業計画				
第1回：聴覚障害の基本的理解（1）聞こえの仕組み、難聴の種類・程度、障害特性について				
第2回：聴覚障害の基本的理解（2）コミュニケーション手段とその特徴について				
第3回：聴覚障害の基本的理解（3）補聴器、人工内耳について				
第4回：聴覚障害教育の歴史 手話法、口話法の論争について 西川吉之助の取組に学ぶ				
第5回：自立活動 自立活動の目的と内容について				
第6回：言語指導（1）言語の機能、言語獲得過程、必要な言語指導について				
第7回：言語指導（2）言語指導の実際、言語評価について				
第8回：言語指導（3）言語指導の実際（手話指導）と課題について				
第9回：聴能教育 聴能教育の目的と意義、聴力検査法の実際、聴能教育について				
第10回：発音指導 発音指導の目的と意義、発音明瞭度検査、発音指導について				
第11回：授業づくり（1）障害特性、発達を踏まえた授業づくりの配慮点				
第12回：授業づくり（2）教科指導の実際、情報保障について				
第13回：キャリア教育 発達に即したキャリア教育の内容与指導について				
第14回：センター的機能 特別支援学校のセンター的機能と実際、他機関との連携について				
第15回：聴覚障害教育の課題 早期発見と早期教育、共生社会、合理的配慮、IT				
定期試験				
テキスト		特別支援教育・療育における聴覚障害のある子どもの理解と支援 （廣田栄子編著 学苑社 2021年）		
参考書・参考資料等				

授業で適宜資料を配付	
学生に対する評価	
定期試験 80%	毎回の授業の最後に提出する小レポート 20%

授業科目名： LD等教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古田直樹、西堂直子 加茂勇
			担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び教育指導法に関する科目（中心領域：重複・LD等領域）		
授業のテーマ及び到達目標			
学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム、情緒障害、言語障害、重複障害について理解する。			
障害のある子どもへの支援・指導の方法、関係機関との連携の在り方を知る。			
授業の概要			
学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム、情緒障害、言語障害、重複障害などの特性を知り、支援の在り方を考える。障害のある子どもの教育制度、教育課程を学び、指導方法や関係機関との連携の多様な在り方について学ぶ。			
授業計画			
第1回：支援の必要な子どもの学びの場の多様性（担当：西堂）			
第2回：特殊教育から特別支援教育への転換に伴う障害児への支援の在り方の変遷（担当：西堂）			
第3回：発達障害児のための教育課程（担当：西堂）			
第4回：特別支援教育コーディネーターの役割（担当：西堂）			
第5回：発達障害児に対する実態把握の在り方（担当：加茂）			
第6回：学習障害（LD）の理解と支援（担当：加茂）			
第7回：注意欠陥多動性障害（ADHD）の理解と支援（担当：加茂）			
第8回：自閉症スペクトラム（ASD）の理解と支援（担当：加茂）			
第9回：情緒障害、言語障害の理解と支援（担当：加茂）			
第10回：重複障害の理解と支援（担当：加茂）			
第11回：アセスメントとは何か（担当：古田）			
第12回：発達検査と知能検査（担当：古田）			
第13回：発達検査を用いた評価と診断（担当：古田）			
第14回：アセスメントを生かした個別の指導計画（担当：古田）			
第15回：個別の教育支援計画と関係機関との連携（担当：古田）			

定期試験は実施しない

テキスト

「子ども理解と特別支援教育－障がいをもつ子どもを理解することから」 森博俊・大高一夫・横尾澄子・天沼陽子編著 （2018） 群青社

「発達障害児と保護者を支える心理アセスメント」 古田直樹著 ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

「教師になるための特別支援教育」 田中良三・湯浅恭正・藤本文朗編著 （2020） 培風館

学生に対する評価

加茂勇担当 40%（レポート試験） 古田直樹担当 30%（レポート試験） 西堂直子担当 30%（レポート試験）